



## 食包協会報第 189 号（2026 年 1 月号）ご案内

平素は「食包協会報」をご愛読いただきまして誠にありがとうございます。この度 189 号（2026 年 1 月号）を公開いたしました。今号では『食の未来』をテーマに 3 編の記事を掲載しております。

1 つ目の記事では、大塚食品株式会社の竹村和志様に『大豆ミート製品「ゼロミート」の開発について』と題して、当該社の蓄積した独自技術を交え、開発背景にまで踏み込んで記載頂いております。新製品開発の企業風土は各社様々だとは思いますが、本記事に記載されている、おいしさをしっかりと科学し、製品に応用することを目的とした「リバースエンジニアリング」は様々な事業展開に応用ができる技術手法となっております。

2 つ目の記事では、日本食品包装協会 水野公備理事に『フードテックで拓く持続可能な食と健康社会』と題して、環境負荷低減と食料安全保障の観点から注目度が高い「代替タンパク」を世界情勢や日本の食料安全保障課題の考察を交えながら、国内外の各企業の取り組み状況を解りやすく説明頂いております。日本では国家政策としてフードテックを活用した新たな食の仕組みづくりが推進されておりますので、ぜひ本記事にて知見を深めて頂ければ幸いです。

3 つ目の記事では、TOPPAN ホールディングス株式会社の大日方野枝様に『第 8 回 NextPackage2025～振り返って』と題して、2025 年 11 月 14 日に秋葉原・UDX カンファレンスギャラリーにて開催された展示会概要をまとめて頂きました。「人と技術の交流が未来を包む」をテーマに出展企業 50 社。来場者は過去最大規模の 854 名と高い関心を集め、産官学交流のきっかけの場として活気に溢れた各社展示内容をコンパクトにまとめて頂いております。

弊協会 Web コミュニケーション委員会では、公平・中立の原則のもと、どのような企画をすれば皆様に関心を持っていただけるかといったことを常に問いながら、これからも魅力ある記事の発信に努めていきたいと考えております。引き続きよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、ご多用のところ執筆を快くお引き受けて下さいました竹村様、水野様、大日方様に心から厚く御礼申し上げます。

2026 年 1 月 28 日  
広報委員 宮川 匠